

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成17年度発生予察技術情報第9号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成17年度技術情報第9号

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ，ツヤアオカメムシ）の誘殺数が，9月第2半旬に増加し，一部地域で果樹園への飛来が認められた。山林におけるカメムシ類の発生が多く，今後，果樹園への飛来に注意が必要である。

1 対象作物 カンキツ，ナシ，カキ

2 情報の根拠

- (1) 予察灯における9月第2半旬の誘殺数が，東郷町，出水市，垂水市で増加しており，東郷町ではチャバネアオカメムシが980頭（2002年1195頭，平年128頭），ツヤアオカメムシが368頭（2002年997頭，平年72頭）であった（図1）。
- (2) 出水市等において，9月上旬から山林に近いカンキツ園でカメムシ類の飛来が認められた。
- (3) ヒノキ球果上での寄生虫数は，9月7～9日の調査で11.6頭/地点（2002年3.2頭/地点）と多かった（表1）。
- (4) 台風の影響によるヒノキ球果の落果は，15地点中2地点で認められた。
- (5) ヒノキ球果の口針鞘数は，9月7～9日の調査で平均14.1本/果であったものの，25本/果（25本/果を越えると成虫がヒノキ樹から離脱するとされている）を超えた地点も認められたことから，一部でヒノキからの成虫の離脱があったものと推察される（表2）。
- (6) 本年は，主な餌となるヒノキの球果が多く，山林での発生量が例年になく多いことから，今後，果樹園への飛来数が増える可能性がある。

3 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の発生は地域間差，ほ場間差があるので，朝夕に園内外を見回り，飛来を認めたら直ちに防除する。山際部の極早生温州では特に注意する。
- (2) 飛来を認めた場合，一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤を選択する（有機リン剤は残効が短い）。なお，合成ピレスロイド系薬剤は，ミカンハダニの発生を助長するので連用を避け，ネオニコチノイド系薬剤や有機リン剤と交互に使用する。
- (3) 防除にあたっては，防除薬剤の使用回数や使用時期を厳守して農薬の安全使用に努める。特に収穫期の近い樹種では，収穫開始予定日を想定して農薬を選定する。

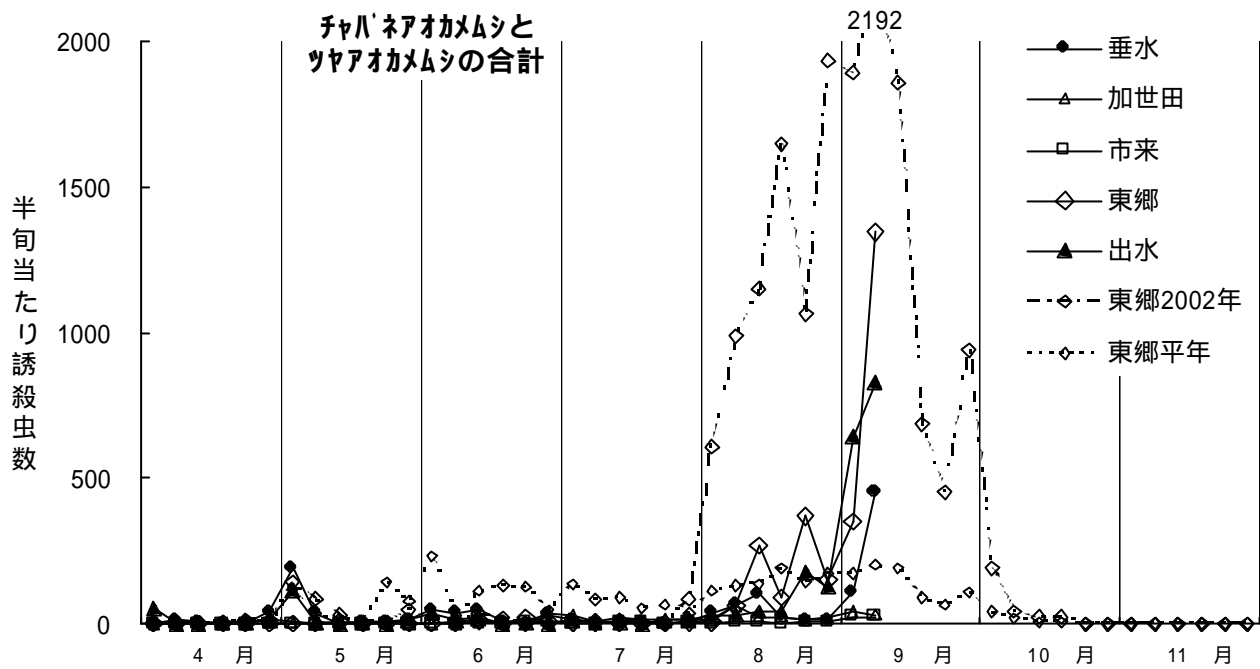


図1 予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況（2005年）

表1 ヒノキ球果上のカメムシ類（チャバネアカメムシ、ツヤアカメムシ）寄生虫数の推移及びヒノキ球果量

年	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬	10月上旬	ヒノキ球果量
2000	0.1(0)	2.5(1.2)	1.2(0.4)	0(0)	0(0)	0(0)	-	極少
2001	0(0)	0.1(0.1)	0.3(0.1)	2.2(0.9)	-	5.9(0.7)	5.2(0.5)	やや多
2002	3.4(1.3)	4.9(1.3)	6.2(0.4)	10.8(2.0)	3.2(0.2)	3.8(0)	1.4(0.1)	多
2003	0.6(0)	1.0(0.2)	1.6(0.9)	2.5(0.4)	1.5(0.9)	1.2(0.2)	-	やや少
2004	1.4(0.5)	3.9(1.1)	5.9(1.5)	8.7(2.3)	4.7(1.4)	0.8(0)	-	やや多
2005	1.0(0.6)	4.0(2.7)	7.4(3.1)	6.6(3.0)	11.6(3.3)			多

数字は1地点当たりの平均 ()内は幼虫数で内数 - : 調査なし

表2 ヒノキ球果1個当たりの口針鞘数（1地点当たり20果調査）

調査地点	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬
串木野市生福	0.1	0.8	5.4	7.0	27.0
市来町湊町	-	-	-	-	17.1
薩摩川内市石堂	-	-	-	-	17.5
さつま町甫立	0.1	0.3	1.5	2.7	17.3
阿久根市桐野下	-	-	-	-	8.3
高尾野町江内	0.1	0.1	3.2	9.7	16.3
出水市大平	0	0	0.3	9.3	18.9
出水市東光山	-	-	-	-	8.0
垂水市上場	0	1.8	4.3	8.5	9.5
加世田市津貫	-	-	-	-	1.3
平均	0.1	0.6	2.9	7.4	14.1

口針鞘数が25本/果を越えると成虫がヒノキ樹から離脱するとされている